道伝えの日　芭蕉忌句会　入賞句

○兼題句「木枯」

・俳誌『飛騨』代表　小鳥幸男選

【推選】

一七、木枯や駅のホームの非常ベル　柴田　恭子
非常ベルが冬来る不安定感を強調

二九、木枯や塗師（ぬし）の散らせる金砂子（きんすなご）　下垣内　町子
素材、流れ共に美し旨

六五、木枯や弟たちに名はつけず　伊藤　秀雄
北風小僧の勘太郎　木枯し紋次郎とか

・互選

【一席】

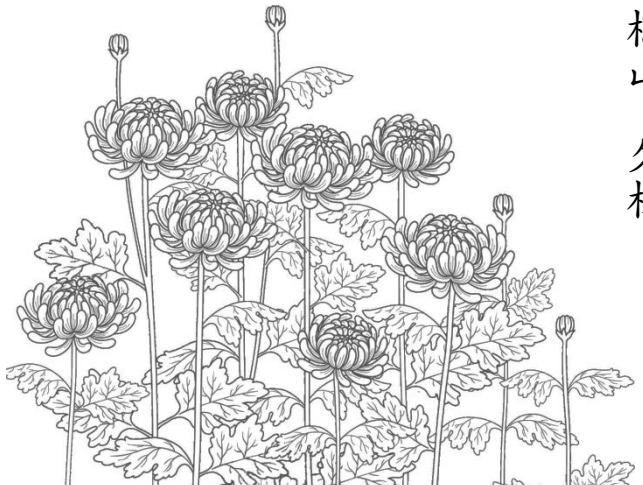
一八、木枯や目に微笑みの六地蔵　野口　喜代男

【二席】

二〇、木枯らしや海一面にショパンの譜　谷口　茂雄

三五、木枯がこがらしを追ふ峡の道　曽出　きよの

三七、木枯や星をはなさぬ鬼瓦　桐山　久枝



道伝えの日　芭蕉忌句会　入賞句

○**当季雑詠句（秋・冬）**

・俳誌『飛騨』代表　小鳥幸男選

【推選】

三、　亡き人に声かけて出る良夜かな　伊藤　浩子

良夜の季語が良い　効いている

一五、　かがやいてすぐ暮れにけり小六月　谷口　ふさ子

季語の特性を逆手に取った手法

六一、　芭蕉忌にまゐらすお茶の香りかな　黒川　みつ恵

俳句らしい俳句

・互選

【一席】

六二、　夕星や田に撒き終へし今年藁　中田　由紀子

【二席】

三、　亡き人に声かけて出る良夜かな　伊藤　浩子

二三、　干し物と共に取り込む小春かな　横山　美保子

【三席】

三三、　水音のどこかにありて紅葉坂　尾崎　淑子

六四、　縁側に座布団二つ小春かな　保木　信子

道伝えの日　芭蕉忌句会　高校生の部　入賞句

・俳誌『飛驒』代表　小鳥幸男選

【飛驒神岡高等学校】

入賞　秋の海心音のごと揺れてをり　二年　濵本（はまもと）蔵人（くらと）

〃　生まれては土に帰りし彼岸花　一年　清水（しみず）千聖（ちさと）

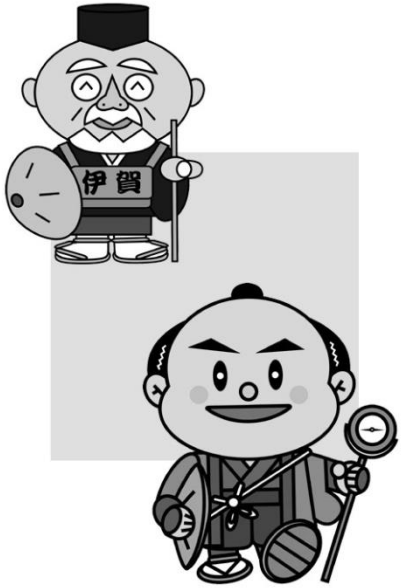
〃　熱燗を飲む親横目にココア飲む　一年　西野（にしの）愛美（まなみ）

〃　人一人歩くための雪を掻く　一年　小屋（こや）晴穂（はるほ）

【吉城高等学校】

入賞　冷（すさ）まじや缶コーヒーを頬にあて　三年　白山（しろやま）穂高（ほたか）

〃　手を横に茶の葉のごと朝の礼　一年　駒屋（こまや）めぐみ

〃　蜜柑むき香まとう手を洗わずに　一年　和田（わだ）桃佳（ももか）

〃　野分来る休校願う高校生　一年　水上（みずかみ）可奈子（かなこ）